

トリノ、Torino



ピエモンテ州の州都がトリノですので、久しぶりの大きな都市への訪問でした。トリノと聞くと、未だに、頭の中でトゥーランドットが鳴り響き、荒川静香のイナバウアー浮かんできます。トリノもミラノからそれほど遠くはありません。ユーロスターなら 1 時間強の距離です。トリノは古代ローマ時代から栄え、13 世紀以降フランス出身のサヴォイア家の支配となっています。16 世紀半ばにはサヴォイア公国の首都となり、19 世紀半ばにはイタリア統一を果たした王家によりイタリア王国の首都となっています。トリノがサヴォイア家の支配の下で発展したのは 17~18 世紀頃で、この頃バロック様式やロココ様式の壮麗な建物が次々と建てられました。内部は歴代君主の収集した調度品や絵画で飾られています。トリノ郊外にある“ピエモンテのヴェルサイユ宮殿”と呼ばれた別荘ヴェナリア城（ヴェルサイユ宮殿はここを真似て造ったとの事）と、狩をするための館として造られたストゥビニージ宮殿は、フランス文化の香りを漂わせていてもっとも華麗で豪華であると言われています。但し、ストゥビニージ宮殿は修復中で見学が出来ません。これらが 1997 年に、サヴォイア王家の王宮群として世界遺産に登録されています。

世界遺産のうち、王宮とマダマ宮殿（マダマとはマダムのことので王妃が住んでいた宮殿です）は、カステッロ広場に面しています。カリニャーノ宮殿及びエジプト博物館のある科学アカデミア宮殿は、その手前にあります。いずれもトリノ市内の中心部なのでポルタ・ヌオーヴォ駅から徒歩で観光できます。これらの宮殿はすべて博物館が附属していますのでじっくりみると時間がかかります。王宮とマダマ宮殿には、ローマ時代の遺跡まであります。

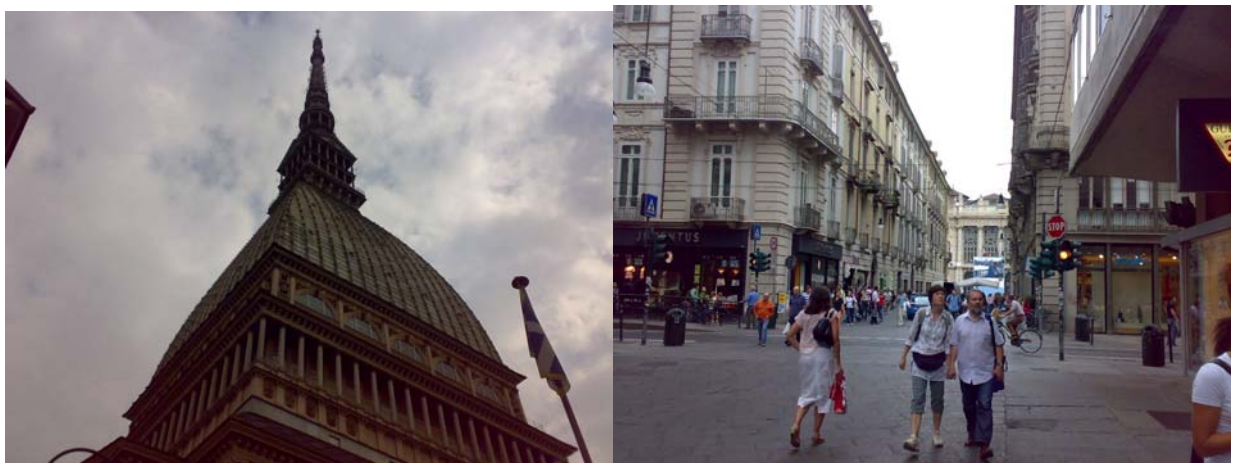


サンカルロ広場やカステッロ広場でもゆっくりしたいところです。また、王宮の横からドゥオモ広場にも抜けられ、ドゥオモも同ジュリアになります。ドゥオモのキリストの聖骸布（キリストの物ではないことは証明されています）は、本物を見ることは出来ませんが、なにやら説明があります。キリストではないにしても不思議な現象であることは間違いありません。あれやこれや見て回ると、観光時間の配分が難しいのでうまく計画を立てて、要領よく出来るだけトリノを楽しんでください。



ヴェナリア城 (Vanaria Reale) は、トリノ・ポルタ・ヌオーヴォ駅西口から直通バスが1時間毎にあり、片道の所要時間は40分です。往復で、観光も入れると3時間必要なので今回はあきらめました。バスのチケットはポルタ・ヌオーヴォ駅の20番プラットフォームの前のGTTのインフォメーションで売っています。その近くの出口から西口に出て、西口の公共バス停留所のとなりにこの直通バスの停留所があります。もう一つのストゥピニージ宮殿は現在修復中で今は観光できません。宮殿内の博物館を含めて、すべて観光しようとしたら、トリノはとてども1日では足りません。

世界遺産の他にもトリノには見所がいっぱいあります。トリノのシンボルである167.5メートルのモーリ・アントネッリアーナは本当に素晴らしい。但し、上に登るには長い列を並ばなければいけません。賑やかなガリバルディ通りやブランド店の並ぶローマ通りもミラノとはまた違った雰囲気があります。ちょっと中心部から離れますが、スローフードのEatalyの本店もトリノにあります。



また、ポー川の両岸にも自然を生かした観光名所があります。私は、モーリ・アントネッリアーナに登る代わりに、ポー川の向こう岸にあるモンテ・デイ・カップッチーニ（11世紀の砦跡に造られた

修道院の教会)の丘の上に登り、トリノの町を見下ろしました。トリノの中心部とモーリ・アントネッリアーナが良く見えてなかなかの絶景です。ポー川に沿って歩き、トリノ側のヴァレンティーノ公園は、市民の憩いの場となっていて、子供達が遊び、ジョギングをしている人、散歩しているお年寄りを多く見かけます。公園にあるカステッロもすばらしいお城です。中にある植物園もとてもきれいですがトリノの国際見本市でポー川沿いに建てられたロッカ・メディエヴァレもなかなか良いところ。この日は、日が良いのか、結婚式が多かったようで、ロッカ・メディエヴァレや植物園で、記念写真を取っている新郎新婦を 5 組くらい見かけました。ポー側には、もう泳いでいる人はいませんでしたが、川岸には、泳げるような設備もあります。また、遊覧船もあります。トリノには、この他にもまだ、郊外の山の麓や山の上に、ヴェナリア城以外にも観光名所があるようで、かなり、奥の深い観光地です。時間をかけて、ゆっくりと観光したい街です。





トリノへはミラノ中央駅からユーロスターがありますが本数も少なく割高です。普通列車なら、ロゴレドからいつものように Linea S でノヴァーラまで行き、ノヴァーラから普通列車でも行く事が出来ます。普通列車の料金もミラノ・トリノ間は 9.2 ユーロと、ユーロスター (22.8 ユーロ、所要時間 1 時間 22 分) に比べると半額以下です。所要時間もミラノ中央駅から 2 時間弱、ノヴァーラから 1 時間強ですのでロゴレドからなら 2 時間半で到着します。朝、7 時 31 分発のノヴァーラ行きに乗り、ノヴァーラから 8 時 59 分発のトリノ行き (ミラノ中央駅 8 時 15 分発のトリノ行き列車につながる) に乗るとトリノには 10 時 10 分には到着します。ミラノ中央駅での乗換を考えると所要時間もそれほど変わらないと思います。帰りはトリノからミラノ中央駅まで 1 時間に 1 本ありますので、好きな時間に帰れば良いと思います。

でも、トリノは、日帰りでは十分に観光できません。やはり、1,2 泊して、ヴェナリア城を初めとして郊外まで足を伸ばして観光したい気持ちになります。トリノの北には、高い山々がそびえて、そこにも、サクロ・モンテを初めとした観光地があります。トリノからは、バスやローカル列車もあり、交通の便もよさそうです。もう一度行ってみたいですね。